PRESS RELEASE

京都市
CITY OF KYOTO

令和３年１月２７日
京都・まちじゅうアートフェスティバル実行委員会
（担当：文化芸術都市推進室文化芸術企画課
電話：０７５－３６６－００３３）

「京都まちじゅうアートプロジェクト」
京都発 令和の茶会「光冠茶会（ころなちゃかい）」の実施について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中，オンラインを活用し，自宅にいながらも席主となるアーティストや他の参加者と同じ時間と空間を共有して文化芸術を楽しむことができるオンライン茶会公演について，企画概要が決まりましたので下記のとおりお知らせします。

記

１　目的

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中，若手芸術家に活動の機会を提供し，市民等に広く文化芸術の魅力に触れていただく場の創出を目的とする。

２　事業名

京都発 令和の茶会「光冠茶会（ころなちゃかい）」

※「光冠」とは，太陽や月に薄い雲がかかったときにそれらの周りが円盤状に青白く輝くように見える大気現象のことで，芸術家が明るく輝き，活躍する様をイメージしています。
本実行委員会では，文化芸術を通して，参加者に勇気や心の豊かさを感じていただくとともに，困難な状況下においても，新しい形の事業に挑戦するという決意を込め，この名称としました。

３　事業概要（詳細は別紙参照）

会　期：令和３年２月２３日（火）～３月２４日（水）
会　場：京都市内各所からオンライン配信
内　容：オンライン茶会の実施
その他：オンライン初心者のためのお試しオンライン茶会も実施予定

４　申込方法

下記ホームページにて，必要事項を入力のうえ，お申込みください。
光冠茶会ホームページ「www.corona-chakai.kyoto」

５　実施主体

主　催：京都・まちじゅうアートフェスティバル実行委員会
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：千宗室 氏（茶道裏千家家元）
総合監修：森口邦彦 氏（染色家・重要無形文化財保持者）
ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ：山本麻友美 氏（京都芸術センター チーフプログラムディレクター）

６　問合せ先

京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課（担当：三原，大石）
電　話：０７５－３６６－００３３

別紙

2020/01/27　Press release

京都まちじゅうアートプロジェクト

光冠茶会

ころなちゃかい

c o r o n a　c h a k a i

【本件問合せ】

[光冠茶会事務局]　運営・チケット・広報について

株式会社日商社（担当：小川、大前）

TEL：075-211-3571　　e-mail info@corona-chakai.kyoto

[事業全体について]

京都市　文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課　（担当：金田、三原、大石）

TEL：075－366-0033　　e-mail bunka@city.kyoto.lg.jp

[企画内容について]

京都芸術センター（担当：山本、萩原、勝治）TEL：075－213-1000 e-mail info@kac.or.jp

c o r o n a　c h a k a i

京都・まちじゅうアートフェスティバル実行委員会では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動の機会が失われた芸術家に発表・活躍の場を提供し、京都市内各地で文化芸術の魅力を発信するため、京都まちじゅうアートプロジェクトを実施します。「光冠茶会（ころなちゃかい）」では、京都まちじゅうアートプロジェクトの 1 事業として、2021 年 2 月～3 月の期間に、席主 10 名による多彩な茶会をオンラインで配信します。参加者には事前に席主が選んだお茶やお菓子を詰め合わせた茶箱が届き、京都らしい特色ある会場からのライブ配信を視聴しながらお愉しみいただきます。

■光冠茶会企画意図

今、社会では、そこかしこで分断が生まれると同時に、人とのつながりの必要性や重要性を実感する場面も多く、社会変革の時に立っているのかもしれません。2020 年、新型コロナウイルスの影響で、芸術体験のあり方は大きく変化しました。人と人が集まり、時間や空間を共にすることはこれまでと同じようにはできず、工夫が必要です。

「茶会」は、総合的に芸術を体験できる場であり、京都らしく現代的な手法で日常における豊かな芸術体験を世界中の人と共有する場であると考えました。分断が進む社会の中で、人と時間や空間を共有し体験するという機会は、茶会の「一座建立」「一期一会」といった概念とともに、今、京都から世界に向けて発信するメッセージとして意味のあるものと考えます。またこの機会を通して、京都のアーティストやその作品、文化を広くアピールしたいと思います。

■クレジット

主催：京都・まちじゅうアートフェスティバル実行委員会（構成：京都市等）
企画：京都芸術センター
アドバイザー：千宗室（茶道裏千家家元）
総合監修：森口邦彦（染色家・重要無形文化財保持者）
ディレクター：山本麻友美（京都芸術センターチーフプログラムディレクター）
運営：株式会社日商社
グラフィックデザイン：坂田佐武郎（Neki inc.）

京都・まちじゅうアートフェスティバル実行委員会
委員　遠藤水城(HAPS 代表理事）、濱﨑麻智（京都市観光協会事務局次長）、
砂川敬（文化市民局文化芸術都市推進室長）、高野裕子（京都コンサートホール事業企画係長）、
中谷至宏（京都市京セラ美術館学芸課学芸係長）橋本裕介（ロームジアター京都事業担当課長）、
山本麻友美（京都芸術センターチーフプログラムディレクター）
監事　福元竜也（京都市文化市民局くらし安全推進部文化市民総務課長）、山田陽子（公認会計士）

■参加方法

１：参加申込

申込受付開始：2021 年 1 月下旬から随時開始（先着順）

※「帰家穏坐」（席主：英ゆう）のみ京都芸術センターのウェブサイト（https://www.kac.or.jp/events/29675/）で申込受付中です。

申込方法：光冠茶会ウェブサイトからお申込みください。

www.corona-chakai.kyoto

申込受付締切：各茶会実施の 7 日前（北海道，沖縄及び離島への発送を希望される場合は 2 週間前までに事務局にお問い合せください）

※アレルギーのある方やベジタリアン等の方は、お申込みの前に事務局までお問い合せください。

※茶箱に冷凍・冷蔵商品が含まれている場合は、海外への発送ができませんのでご了承ください。また、現在、各国、地域の航空便の減便等が継続しており、発送ができない場合があります。

↓↓

２：茶箱（参加キット）がご指定の住所に届きます

※発送が完了しましたら、お申込みの方にメールでご連絡します。

※各席主が考えたお茶会のためのキットです。届いたら、案内や内容物をご確認ください。

↓↓

３：それぞれの茶会にあわせて準備をお願いします

※ご自宅で、それぞれの場所で愉しむために少しだけ準備にご協力ください。

ご案内に沿って、準備や待ち時間もあわせて、ご参加ください。

↓↓

４：開催時間に参加サイトにアクセス（SPWN（スポーン）またはZOOM（ズーム）を使用したリアルタイム配信となります。）

※注意事項に沿ってお湯やカップを用意し、参加サイトにアクセスし開始されるまで待機してください。

※当日やむを得ず参加できない場合は、後日アーカイブ配信をご覧いただくことができます。（参加費をお支払いいただいた方は無料、アーカイブ視聴のみは別途料金をお支払いください）

オンライン初心者のみなさまへ　お試しオンライン茶会開催

「オンライン会議に参加したことがなく参加するのは不安・・・」という方を対象に、どなたでも参加していただけるお試しオンライン茶会を開催します。インターネットにアクセスできるスマートフォンやタブレット、パソコン等があれば、どなたでもご参加していただけます。〈茶の湯サロンいっぷく〉のお稽古の様子、簡単レクチャーを zoom で配信します。

参加申込：京都芸術センターまでお電話、メール、ウェブサイト(TEL075-213-1000, e-mail info@kac.or.jp, https://www.kac.or.jp/)からお申し込みください。開催前日までに参加のアドレスをお知らせします。

開催日時：2021 年 2 月 9 日（火）16 時～17 時　※入退室自由、無料

協力：茶の湯体験サロンいっぷく（京都芸術センターボランティアスタッフと友の会会員で構成される茶道倶楽部）

■実施一覧　（★は別途、オンサイトでの展覧会を予定。詳細はウェブサイトで発表します）

タイトル／席主／場所	日時	内容
「帰家穏坐（きかおんざ）」 英ゆう（美術家）★ 京都芸術センター	2 月 23 日（火・祝） ①11:00- ②14:00- ③16:00-（約 45 分） ■定員：各 20 名×3 席	室内にイマジネーションの庭を作り出す試み。庭師で茶人の植彦（甘雨庵）によるお点前と独茶。 ■参加費：2,000 円／茶箱：煎茶・干菓子、手作りの竹茶碗ほか
「壱太郎の舞茶会（まいちゃかい）」 中村壱太郎（歌舞伎俳優） 旧三井家下鴨別邸	2 月 28 日（日）14:00- （約 50 分）■定員：100 名	席主本人によるお点前と舞踊「島の千歳」の披露とトーク。旧三井家下鴨別邸よりお届けします。 ■参加費：2,500 円／茶箱：抹茶・菓子・茶筅ほか
「オンライン・マテ茶会」 神里雄大（劇作家・演出家） 花結び a rossete	3 月 6 日（土）15:00-、7 日（日）15:00- （約 45 分） ■定員：各回 50 名	南米アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイなどで飲まれているマテ茶をお出しします。地域ゆかりのお茶菓子もつきます。 ■参加費：1,500 円／茶箱：マテ茶・ボンビージャ、マテ茶にあう菓子【冷凍】ほか
「How to 溶けるレロ」 康本雅子（振付家） 鴨川湯	3 月 12 日（金）17:30-（約 60 分）■定員：30 名	参加者も実際に身体を使って楽しんでいただける銭湯でのワークショップとダンスパフォーマンス。 ■参加費：2,000 円／茶箱：黒糖葛湯、入浴剤ほか
「中国茶、台湾茶～時間をたのしむ」 吉田裕子（料理人） 閒居吉田や	3 月 13 日（土）15:00-（約 90 分）■定員：100 名	大宮エリー、カヒミ カリイをゲストに「見ること、つくることを楽しむお茶」をカタチにします。 ■参加費：2,500 円／茶箱：工芸茶、客家擂茶ほか
「渡月茶会－2021 年宇宙の旅」 ヤノベケンジ（現代美術家）★　場所は調整中	3 月 20 日（土・祝） 15:00-（約 50 分） ■定員：100 名	半東に太田達氏を迎え、ミクロとマクロの時空間を旅するドーム型の「小宇宙」での茶会です ■参加費：3,000 円／茶箱：抹茶・老松特製菓子【冷凍】ほか
「胎内茶会」 西條茜（陶芸家・美術家）★ 地下鉄醍醐車庫	3 月 21 日（日）時間調整中 ■定員：100 名	私たちの足元に拡がる地下空間、京都市営地下鉄醍醐車庫での茶会。コラボレーター：中山福太朗（茶人） ■参加費：2,500 円／茶箱： 煎茶、亀末廣「京の土」他
「あなたのメロディが名曲に」 岡田暁生（音楽学者） 二条城　香雲亭	3 月 24 日（水）14:00-（約 60 分） ■定員：100 名	二条城の香雲亭から美しい庭を背景に行うジャズ・ピアニストのフィリップ・ストレンジの演奏とトーク。 ■参加費：2,500 円／茶箱：珈琲・特製菓子ほか
「Voyage」 宮永愛子（現代美術家） 場所は調整中	3 月下旬 ■定員：調整中	ひとつの箱から宙（そら）の海へ。宇宙を感じることのできる茶会です。 ■参加費：調整中／茶箱：観測にちなんだお菓子、お茶・小さな宇宙を詰めてお届けします。
「国際人類観測年」 黒嵜想（批評家） 場所は調整中	3 月下旬 ■定員：調整中	南極からの特別映像の配信、およびゲストを招いてトークを冷凍コンテナからお届けします。 ■参加費：調整中／茶箱：南極の氷（限定数）他を予定

「帰家穏坐（きかおんざ）」　席主：英ゆう（美術家）

室内にイマジネーションの庭を作り出す試み。庭師で茶人の植彦（甘雨庵）によるお点前と独茶。

日時：2 月 23 日（火・祝）①11:00- ②14:00- ③16:00-（約 45 分）
場所：京都芸術センター
定員：各 20 名×3 席
参加費：2,000 円
茶箱：煎茶・干菓子・手作りの竹茶碗ほか
点前：植彦（甘雨庵）
※参加にあたって：本席は京都芸術センターの明倫茶会として実施します。申込方法等が他と異なります。詳細は以下をご覧ください。https://www.kac.or.jp/events/29675/
ウェブ会議サービス zoom を使用した双方向の配信です。

英 ゆう｜はなぶさ ゆう
1973 年京都生まれ。大学院在学中 Royal College of Art（イギリス）への交換留学を経て 1998 年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。2004 年文化庁新進芸術家海外派遣制度によりタイ王国チェンマイにて滞在制作、2007 年より京都市文化芸術特別奨励制度を受けてタイ王国バンコクにて滞在制作、2009 年ポーラ美術振興財団在外研修員　2011 年京都市芸術新人賞受賞。
2009 年バンコクにて個展「Floating Illusion」PSG Art Gallery（日メコン交流年正式認定事業）、2010 年個展「外を入れる」京都芸術センター（大広間）等、国内外にて展覧会多数。

植彦（甘雨庵）｜うえひこ（かんうあん）
1981 年神奈川生まれ、京都在住。20 歳より造園業を始める。25 歳より煎茶道を始め、甘雨庵建築、露地作庭。36 歳より自宅の茶室（甘雨庵）にて茶事を開催。

英ゆう展覧会 『作庭ひらく』
日時：2021 年 2 月 13 日 (土) – 2 月 27 日 (土)10:00 ～ 20:00
※2 月 22 日、23 日は明倫茶会実施のため休廊
会場：京都芸術センター 和室「明倫」　※無料・予約不要

「壱太郎の舞茶会（まいちゃかい）」　席主：中村壱太郎（歌舞伎俳優）

近年、古典としての歌舞伎だけでなく新作歌舞伎、現代劇などにも出演、ART 歌舞伎を手がけるなど目覚ましい活躍を繰り広げる中村壱太郎。今回の茶会では、重要文化財である旧三井家京都下鴨別邸から席主本人によるお点前と、生配信の舞踊「島の千歳」をご覧いただきます。また、舞の披露だけでなくチャットを通じてお客様との会話の時間もございます。ぜひ光冠茶会でしか味わえない中村壱太郎との時間をお愉しみください。

皆さんには「お点前」と「舞」にてお楽しみいただきたいと思います。

（中村壱太郎より）

日時：2 月 28 日（日）14:00- （約 50 分）
場所：旧三井家下鴨別邸
定員：100 名
参加費：2,500 円
茶箱：抹茶・菓子・茶筅ほか

中村壱太郎｜なかむらかずたろう

1990 年 8 月 3 日生まれ。四代目中村鴈治郎の長男。祖父は坂田藤十郎。母は吾妻徳穂。
1991 年 11 月京都・南座〈三代目中村鴈治郎襲名披露興行〉『廓文章』の藤屋手代で初お目見得。
1995 年 1 月大阪・中座〈五代目中村翫雀・三代目中村扇雀襲名披露興行〉『嫗山姥』の一子公時で初代中村壱太郎を名のり初舞台。
2010 年 3 月京都・南座、『曽根崎心中』のお初という大役に役柄と同じ 19 歳で挑む。
2013 年 3 月、慶應義塾大学総合政策学部卒業。
2014 年 9 月、吾妻徳陽として日本舞踊吾妻流七代目家元襲名。
2016 年、野田秀樹 作、オン・ケンセン 演出「三代目、りちゃあど」に出演。
新海誠監督作品 映画「君の名は。」でヒロイン・三葉と四葉の姉妹が舞う 巫女の奉納舞を創作。
2020 年 7 月、配信公演「ART 歌舞伎」を企画・総合演習・主演。
現在、女形を中心に歌舞伎の舞台に精進しつつ、ラジオやテレビなどにも活動の場を広げている。
また「春虹」の名で脚本執筆、演出にも挑戦中。
中村壱太郎ウェブサイト　http://kazutaronakamura.jp/

「オンライン・マテ茶会」　席主：神里雄大（劇作家・演出家）

南米アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイなどで飲まれているマテ茶をお出しします。地域ゆかりのお茶菓子（正確には菓子ではないですが）もつきます。
移動が難しくなってしまった昨今、そもそも日本からは行くのにハードルが高い南米の地の味と匂いから、遠い土地へ思いを馳せていただけたらと思います。

日時：3 月 6 日（土）15:00-／7 日（日）15:00- （約 45 分）
場所：花結び a rossete
定員：各回 50 名
参加費：1,500 円
茶箱：マテ茶・ボンビージャ・マテ茶にあう菓子【冷凍】ほか
※参加にあたって：ベジタリアンの方、食品アレルギーをお持ちの方はお問い合わせください。

神里雄大｜かみさとゆうだい
1982 年、ペルー共和国リマ市生まれ。
2006 年「しっぽをつかまれた欲望」（作：パブロ=ピカソ）で利賀演出家コンクール最優秀演出家賞受賞。
2018 年「バルパライソの長い坂をくだる話」で第 62 回岸田國士戯曲賞受賞。
各地を訪問し採集 したエピソードを元に、移動し越境する人々をテーマにした作品を発表している。近年は文芸誌「新潮」に戯曲が掲載され、ソウル、香港、台北、ニューヨーク、ロンドンなどで翻訳戯曲が上演されるなど、その作家性に注目を集めている。
『亡命球児』（「新潮」2013 年 6 月号掲載）によって、小説家としてもデビュー。2016 年 10 月より、文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてアルゼンチン・ブエノスアイレスに 1 年間滞在した。

「How to 溶けるレロ」　席主：康本雅子（振付家・ダンサー）

参加者も実際に身体を使って楽しんでいただける銭湯でのワークショップとダンスパフォーマンス。甘くてあったかい葛湯を飲みながら、身体のコリをほぐし、みんなで溶けるレロ。

日時：3 月 12 日（金）17:30-（約 60 分）
場所：鴨川湯
定員：30 名
参加費：2,000 円
茶箱：黒糖葛湯、入浴剤ほか
※参加にあたって：zoom を使っての双方向の配信です。ワークショップ中はカメラをオンにし、少し身体を動かせる形でご参加ください。

康本雅子｜やすもとまさこ
ダンサー・振付家。自作品を発表する他、演劇や映像や広告など多岐に渡るジャンルにて活動。教育機関での WS も多数行っており、最近は「マジな性教育マジか」も始動。どちらもハウツーは教えない。2020 年は「全自動煩脳ずいずい図」を発表しまだ踊れることを再確認。

写真：松本成弘

「中国茶、台湾茶～時間をたのしむ」　席主：吉田裕子（料理人）

「見て、つくって楽しむお茶」お茶の記憶をカタチにする、共有する言葉とヴィジュアル。
茶席を共にせず 1 杯の茶の味わいを語り合うのは難しいことです。このオンライン茶会ではお茶をいただくことだけでなく、目を通して心を楽しませるお茶、そしてつくる行為を通し自宅でそれぞれのお茶を楽しもうという茶会です。この日のために中国、台湾の珍しいお茶を用意いたします。そしてゲストの方とお茶をテーマに絵や言葉を用い、その味わいや記憶のありようを形のあるものに表現し、ネットの向こうの参加者に届け、同じ茶席にいたかのように共有することができればと思います。

日時：3 月 13 日（土）15:00-（約 90 分）
場所：閒居吉田や
定員：100 名
参加費：2,500 円
茶箱：工芸茶、客家擂茶ほか
進行：高橋マキ
ゲスト：大宮エリー
映像作品：カヒミ カリイ＆ニキ
※参加にあたって：各茶葉を愉しむために以下のものを各自ご準備ください。（茶箱には含まれていません）
　工芸茶：耐熱ガラスのポット又は耐熱ガラスのグラス又は工芸茶を眺めやすい器（カフェオレボウルなど）
　客家擂茶:すり鉢とすりこぎ、スプーン
　東方美人茶：ティーポットとお湯のみ又は抹茶茶碗

吉田裕子｜よしだひろこ

京都生まれ。京都市立芸術大学で彫刻を学びジュエリーデザイナーとして活動。料理好きが高じケータリングを始め 2000 年、京都に「吉田屋料理店」を開く。2019 年、同店を閉店後 2020 年、宿と料理「閒居　吉田や」を開業。広い庭を望む小さなレストランは紹介制のプライベートキッチン。宿泊施設は 1926 年に建てられた伝統的木造家屋。
著書に『京都吉田屋料理店』（2006 年、主婦と生活社）『吉田屋とヒント』（2010 年、BCCCS）
HP: kyoto-yoshidaya.jp
Instagram: yoshidayahiroko

「渡月茶会－2021 年宇宙の旅」　席主：ヤノベケンジ（現代美術家）★

半東に太田達氏を迎え、ミクロとマクロの時空間を旅するドーム型の「小宇宙」での茶会です。自給自足ができる移動型住居のモデルを「茶室」に見立て、バーチャルな月旅行に誘います。宇宙開発でも可能性が広がる、食糧やエネルギー利用が可能な「藻類」を用いた特製菓子とともにお楽しみください。

日時：3 月 20 日（土・祝）15:00-（約 50 分）
場所：調整中
定員：100 名
参加費：3,000 円
茶箱：老松特製生菓子（チルド）・抹茶ほか
半東：太田達（有職菓子御調進所老松、有斐斎弘道館理事）
※参加にあたって：菓子には一部、クロレラを使用しています。

ヤノベケンジ｜やのべけんじ

現代美術作家。京都芸術大学教授兼ウルトラファクトリー・ディレクター。
1965 年、大阪生まれ。1991 年、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。
1990 年初頭より、「現代社会におけるサヴァイヴァル」をテーマに実機能のある大型機械彫刻を制作。1997 年より、放射線感知服《アトムスーツ》を身にまといチェルノブイリを訪れる《アトムスーツ・プロジェクト》を敢行。2011 年、東日本大震災後、希望のモニュメント《サン・チャイルド》を制作し、国内外で巡回。2013 年、瀬戸内国際芸術祭で《スター・アンガー》とビートたけしとの共作《ANGER from the Bottom》を出展（後に恒久設置）。2019 年、人類の守護獣《KOMAINU ―Guardian Beasts－》を比叡山延暦寺に奉納展示。コロナ禍の 2020 年 3 月末、疫病から人々を守る願いを込め京都芸術大学正門前に再展示。アートの枠組みを超えた幅広い創作活動を続けている。
http://www.yanobe.com

「胎内茶会」　席主：西條茜（陶芸家・美術家）★

私たちの足元に拡がる地下空間、京都市営地下鉄醍醐車庫での茶会。
暗闇の中で響く茶釜の音と西條作品を用いたサウンドパフォーマンスが重なり合います。
私たちが生まれた胎内へと回帰するような体験をご自宅のお部屋を暗くしてお楽しみください。

日時：3 月 21 日（日）時間調整中
場所：地下鉄醍醐車庫
定員：100 名
参加費：2,500 円
茶箱：煎茶、亀末廣「京の土」ほか
コラボレーター：中山福太朗（茶人）
※参加にあたって：後日ウェブサイトでお知らせします

西條 茜｜さいじょうあかね

1989 年兵庫県生まれ。 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻陶磁器分野 修了。2013 年ロンドン ロイヤルカレッジオブアートへ交換留学。「空洞」でありながら「リアリティある表面」という陶磁器の特徴に着目する一方で、世界各地にある窯元などに滞在し、地元の伝説や史実に基づいた作品を制作している。〈主な個展〉 2019 年タブーの室礼(ワコールスタディホール/京都)、2017 年 Folly（アートスペース虹/京都）、〈主なグループ展〉2019 年越境する工芸(金沢 21 世紀美術館/金沢)、ARTISTS' FAIR KYOTO 2019（京都文化博物館 別館/京都）、2018 年ニューミューテーション－変・進・深化（京都芸術センター/京都）、2017 年 Ascending Art Annual Vol.1 (スパイラル/東京)。〈アーティスト・イン・レジデンス〉2019 年 Le Maupas A.I.R.(フランス)、2017 年 European Ceramic Work Centre（オランダ）。2020 年度京都市芸術文化特別奨励者認定者。

「あなたのメロディが名曲に」　席主：岡田暁生（音楽学者）

二条城の香雲亭から美しい庭を背景に行うジャズ・ピアニストのフィリップ・ストレンジの演奏とトーク。参加者の皆様からお送りいただいたメロディを元に、当日の演奏曲や構成が決まります。

日時：3 月 24 日（水）14:00-（約 60 分）
場所：二条城　香雲亭
定員：100 名
参加費：2,500 円
茶箱：珈琲・特製菓子ほか
参加にあたって：お申し込み後 3 月 22 日までに、メールにて、三つか四つの音で出来たメロディの断片を送りください。楽譜でも、リズムなしで音名だけでも結構です（例えば「ドドレ」「ドミレソ」「ドシドレ」など）。『さくらさくら』等の既成曲の一節（ララシ）でも OK です。

岡田暁生｜おかだあけお

1960 年京都生まれ。京都大学人文科学研究所教授。専門は音楽学。著書に『〈作曲家◎人と作品〉リヒャルト・シュトラウス』（音楽之友社）、『楽都ウィーンの光と陰』（小学館）、『「クラシック音楽」はいつ終わったのか?』（人文書院）、『音楽の聴き方』（中公新書、第 19 回吉田秀和賞）、『ピアニストになりたい』（春秋社、平成 20 年度芸術選奨文部科学大臣新人賞）、『西洋音楽史』（中公新書）、『オペラの運命』（中公新書、第 23 回サントリー学芸賞）、『すごいジャズには理由がある』（アルテスパブリッシング）などがある。『スコラ　坂本龍一　音楽の学校』（NHK）など、テレビ出演も多数。コロナ下の音楽を論じた近刊『音楽の危機』（中公新書）が話題を呼んでいる。

フィリップ・ストレンジ｜Phillip STRANGE

1960 年テキサス生まれ。グレン・ミラー・オーケストラのメンバーとして 1988 年に初来日、10 年間甲陽音楽院（神戸）で教鞭をとった後、1999 年より奨学金給費特別研究員としてマイアミ大学に招かれる。2003 年にキース・ジャレットの即興についての論文で博士号を得る。2005 年までマイアミ大学講師（ジャズ・ピアノ）。マイアミ時代にはダウンビート誌より Best Instrumental Jazz Solist (2002, 2003)、Best Jazz Original Composition (2002)、Best Jazz Instrumental Group (2001)を受賞。クレア・フィッシャー、ヴィンス・マッジョらに師事。ジョー・ヘンダーソン、ルー・タバキン、デーブ・ホランド、ピーター・アースキン、マーク・ジョンソン、ジェームス・ムーディー、ケビン・マホガニーらと共演。リリースＣＤ多数。

c o r o n a　c h a k a i

「Voyage」　席主：宮永愛子（現代美術家）

宇宙を感じられるお茶会を開きたい、と友人に話したら、「好きな時にオンラインできたら時空を超えられるよね」というひとことからこのお茶会がはじまりました。
あなたは今どんなところにいますか？
騒々しい日常でしょうか、一人の空間でしょうか。
数分でも、数十分でも。それぞれがそれぞれのタイミングで旅におでかけください。
ひとつの箱から宙（そら）の海へ。

日時・場所・定員・参加費：調整中
茶箱：観測にちなんだお菓子、お茶・小さな宇宙を詰めてお届けします。
参加にあたって：この茶会は、参加者と交流を通したプロジェクトになります。開催後に、この日のことを思い出すようなことができればと考えています。
※開催前、参加者と作家の文通が一度あります。
※終了後、茶会記を制作しお届けします。

宮永愛子｜みやながあいこ
1974年京都府生まれ。2008年東京藝術大学大学院修士課程修了。日用品をナフタリンでかたどったオブジェや、塩、陶器の貫入音や葉脈を使ったインスタレーションなど、気配の痕跡を用いて時を視覚化する作品で注目を集める。2013 年「日産アートアワード」初代グランプリを受賞。主な個展に「宮永愛子：漕法」（高松市美術館 香川 2019）、「みちかけの透き間」（大原美術館 有隣荘 岡山 2017）、「宮永愛子：なかそら―空中空―」（国立国際美術館 大阪 2012）などがある。
Kyoto Art for Tomorrow 2020（京都文化博物館　2020 年 1 月 25 日～2 月 9 日）では特別出展作家として作品が公開される。

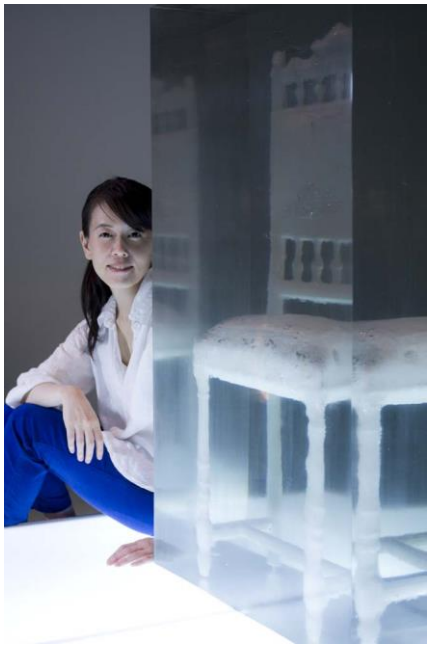

Photo by MATSUKAGE
©MIYANAGA Aiko, Courtesy Mizuma Art Gallery

「国際人類観測年」席主：黒嵜想（批評家）

南極からの特別映像、および科学者コミュニティに人類学的な調査を続けてきた森下翔さんとのトークを冷凍コンテナから配信します。感染者数の増減やグラフの波線形に一喜一憂しつつも「（ニュー）ノーマル」を固持する社会からいったん離れ、観測と原理がゼロ距離になる地点を目指す。この茶会を、そんな場にしたいと思います。

日時・場所・定員・参加費：調整中
ゲスト：森下翔（人類学者）ほか
茶箱：南極の氷（限定数）ほかを予定

黒嵜想｜くろさきそう

1988 年生まれ、批評家。音声論をテーマとし、雑誌の編集やイベント企画など多様な評論活動を自主的に展開している。活動弁士・片岡一郎氏による無声映画上映会「シアター13」 を企画、声優論「仮声のマスク」を批評誌『アーギュメンツ』に連載、Vtuber 論 を『ユリイカ』2018.7 号(青土社)に、バ美肉論を Web メディア「Rael Sound Tech」に寄稿。また、学術雑誌『想文』第一号には 「波線にさまようイドラー仏教音楽声明試論ー」を寄せ、インド仏教最高指導者・佐々井秀嶺氏の来日講演では聞き手を務めた。ほか、『アーギュメンツ#2』編集、『アーギュメンツ#3』を批評家・仲山ひふみと共同編集、メディア「ひるにおきるさる」 を哲学研究者・福尾匠と共同企画など。

森下翔｜もりしたしょう

1987 年生。大阪大学社会技術共創研究センター特任研究員（2020.5-）。京都大学人間・環境学研究科博士後期課程満期退学。専門は文化人類学（修士（人間・環境学））。
日本およびインドネシアをフィールドとし、科学者の研究室における参与観察・インタビュー調査をおこなう（ラボラトリー・スタディーズ）。主な論文・論考に「不可視の世界を畳み込む：固体地球物理学の実践における『観測』と『モデリング』」（『文化人類学』2014 年 78 巻 4 号）、「『融合』としての認識＝存在論：『非＝自然主義的』な科学実践を構成する『観測データへの不信』と『ア・プリオリなデータ』の概念」（『文化人類学』2020 年 85 巻 1 号）、批評家・黒嵜想（編）『アーギュメンツ#2』所収の鼎談等。

■光冠茶会について

昨年、私は、大規模な回顧展で、多くの人に作品を見ていただく機会を得た。その際に、若い学生のみなさんと、オンライン上での双方向の対話の場を持ち、熱心なやりとりを経験することができた。その経験を通して、今後、美術展のあり方も、変わっていかなければならないと改めて感じていた。
そのような双方向の交流と出会いが、この茶会にもあればと考えている。今の時代、コロナに関わりながら生きるということと、芸術文化がこの時代をどのように生きるのかということを考え、ゆっくりだけれど、これまでを反省しながら、消費文明に対する批判的な視線を持つことも必要だろう。
みなさんには、光冠茶会を通して、未来への立ち上がり方を目撃してほしい。ウイルスを含め多様なものと共存していくことで、様々な示唆を得ることができる。いつも会わない人と出会うことでスパークし、新しい答えが返ってくる。この茶会自体が、新しいメッセージになればと思う。

総合監修　森口邦彦（染色家・重要無形文化財保持者）

2020 年春から、新型コロナウイルスの影響を受けた芸術家や施設、団体をさまざまな形で支援しようとする動きが世界的にあり、京都芸術センターでも京都市と連携し、緊急的な支援策の実務を数多く担ってきました。そんな中で、芸術や文化を生活の糧にしている人や、自粛を求められることも多く日常生活に息苦しさを感じている人に、どうすれば今の時代にあった形で芸術を鑑賞する機会を創出できるだろうと考えていました。企画のヒントになったのが、京都芸術センターで2000 年の開館時から行ってきた、多彩な芸術家や専門家を席主に迎え、それぞれの趣向を凝らしおもてなしを体験できる「明倫茶会」です。さらに、夏頃から京都の先進的な茶人が多数試みておられたオンライン茶会という画期的な発想を組み合わせたのが、今回の「光冠茶会」の誕生のきっかけになりました。「光冠茶会」は、多くの方が想像する茶会とは別のものかもしれません。しかし、現代的な手法で日常における豊かな芸術体験を世界中の人と共有する場にできると感じています。加えて、分断が進む社会の中で、他者と時間や空間を共有し体験するという機会は、茶会の「一座建立」「一期一会」といった概念とともに、今、京都から世界に向けて発信するメッセージとして意味のあるものと考えます。
単なる一方通行の支援や発信ではない、新しい芸術創造や交流の場の創出は、京都芸術センターの使命でもあり、開館 20 周年の節目にこのような機会を得られたことを感謝するとともに、参加者のみなさまと、席主・関係者のみなさまとの新しい一歩にしたいと思います。

ディレクター　山本麻友美（京都芸術センターチーフプログラムディレクター）